

【チャレンジ問題⑨】

故事成語・ことわざ・慣用語・推敲

五年 組 番 名前

問題

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

※1 賈島は、科挙という試験を受けるために、都である 長安（※2）にやってきて、ロバに乗りながら詩を作っていると、「僧は推す月下の門」の 句（ア）ができました。しかし、この「推す」を改めて「敲く」という文字にしたいと思いました。そこで、手を動かして「推す」と「敲く」の仕草をしてみたものの、なかなか決まらずに 句（イ）まよっていました。

そうしているうちに、思わず都の身分の高い役人である韓愈（かんゆ）の列にぶつかってしまいました。

そこで賈島は 句（ウ）謝り、列にぶつかってしまった理由を詳しく説明しました。

※3 韓愈（かんゆ）は落ち着いた 句（エ）たいどで「敲く」という文字が良い。」と言いました。

そのまま二人は、乗り物を並べて進みながら、詩についてしばらく話し合いをしていました。

（出典『唐詩記事』巻四十より）

（※1） 賈島……人の名前

（※2） 長安……当時の中国の首都

（※3） 韓愈……人の名前

問一

文章中の 線部について、漢字の読みをひらがなで、ひらがなは漢字に直して 空欄に正しく書きましょう。送りがなが必要なものは送りがなも書きましょう。

（ア） 句

（イ） まよって

（ウ） 謝り

（エ） たいど

問二

この文章にある出来事から「推敲」という故事成語が生まれました。「推敲」の意味として最も適するものを次の中から一つ選び、番号で答えましょう。

- ① 小さな差はあるが、たいした変わりはないこと。似たり寄ったり。
- ② 詩や文章を良くしようと、何度も考え練り直すこと。
- ③ 欠点や不足がなく、非常に立派なこと。

問三

次の□に入る故事成語として適切なものを、あとの①～③の中から選び、番号で答えましょう。

昨日言っていたことと、今日言っていることは

□

している。

- ① 守株 (しゅしゅ)
- ② 助長 (じよちやう)
- ③ 矛盾 (むじゆん)

問四

次の□に入る慣用句として適切なものを、あとの①～③の中から選び、それぞれ番号で答えましょう。

(2) 祖父は

□

孫の様子を見ている。

- ① 目を覆って (おお)
- ② 目を閉じて
- ③ 目を細めて

(1) 展望台から見える景色の美しさに

□

- ① 息をのんだ
- ② 息を吐いた
- ③ 息を切らした

問五

次の□に入ることわざとして適切なものをあとの①～③の中から選び、それぞれ番号で答えましょう。

□

というし、あせらずに練習を続けていこう。

- ① 柵からぼた餅 (たなもち)
- ② 石の上にも三年
- ③ 病は気から

(2) 彼が英語も話せるようになったら、もう

□

だ。

- ① 鬼に金棒 (おにかなぼう)
- ② 犬猿の仲 (けんえん)
- ③ 馬の耳に念仏 (うまみみになぶつ)